

令和5年度 西都市立妻中学校 学校評価

- 「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。
 4:とてもそう思う、 3:そう思う、 2:あまりそう思わない、 1:そう思わない
- 「評価者」…「第一次」:学校による自己評価、「第二次」:保護者評価、「第三次」:学校評議員評価

4～1の数字を記入してください

評価項目	学校評議員より		評価
			第三次
知 将来 びの に自 己向 か実 う現 力を 向 高 め る	ア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の進路学習特別講座は、今後も継続してください。特にいいことだと思います。 ○ 3年の保護者視点からも、とてもいい学びの場を提供いただいたと感じます。妻高、西都市の方と関わり、「考える」ということを、地域をテーマに行えたようです。学びの原点は地域にあるのだと思います。 ○ 進路の選択について、高校の選択については、その後の将来を大きく左右すると言っても過言ではなく、地元高校から直接の先輩を招いての特別講座は大変良い取組であると思います。ただ、考えすぎかもしれませんが個人的に近年妻高校の統合問題以降「何はなくとも存続ありき」的な雰囲気先行している気がしており、「第一は生徒である」ということを念頭に、地元高校ではなく他校に向いている生徒については相応な進路指導をして欲しいと思っております。 ○ 特に3年生は妻高校の校長や生徒による教育講座が開催され、将来の夢に向かって学力の向上につながれば喜ばしいことだと思う。 	3.67
	イ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己達成感で人間は伸びると思いますので、子どもに自信を付けさせる教育をお願いします。 ○ 取組自体は良いことだと思います。あとは結果（学力向上）につながればと。 ○ タブレットドリルは勿論あってよいが、週末1回位は紙の宿題も欲しい。丸付けは親や本人がして、教師の負担は避けるという意見も聞く。 	3.00
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で体験したり学習したりしたことを発表することは、将来に向けて非常に大切なことだと思う。1年生の「ポスターセッション」も恥ずかしがらずに発表していたので良かったと思います。 ○ 各学年とも発表の場があることは素晴らしいと思います。3年のさいと学については、各クラスでテーマが異なっているようでしたが、さらにそれらがリンクしているという気づきがあったか知りたいたるところでした。 ○ 1年生の「ポスターセッション」については、自分たちで調べ、その職業（職場）の内容を知り、地元の企業を知り、キャリア教育の観点からも良かったと思います。また、3年生の「さいと学アワード」についても、さらにレベルの高い発表がされ、いずれもインプットしたものをアウトプットするまでの取組の素晴らしいところであり、思考力や表現力を身につけることの出来る素晴らしい取組であると思います。 ○ 小・中・高校生による「さいと学」に短時間ではあるが見聞すること、機会を得、それぞれが探究したことを発信することで実現可能も夢でないことが各機関に伝わることを願う。 ○ 「さいと学」の探究は小学校から引き続いており、素晴らしい学習だと思う。皆発表する態度も良くなっている。 	3.83
エ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たち老人は、ICTが苦手ですが、子ども達は得意になってほしい。その反面人と人の間の温かさも大事にしてほしい。 ○ 支援員がいることは今後の工夫につながると思います。 ○ DXの取組については、どの自治体も手探りで始まったばかりで、予算不足や人材不足、その他技術的な課題があると聞いております。本市では個人用のタブレットの導入がなされており、進んでいると思いますが、今後も先進事例等の情報を取り入れながら更なる創意工夫を期待したいと思います。 ○ 授業見学の際、生徒が熱心に授業を受けていた。先生方が日々頑張っていると思った。大いに活用して欲しい。 	3.58	
オ 徳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年いろんな方をお呼びして、人権に関する話を直に聞ける場は素晴らしいと思います。保護者の参加を期待したいです。 ○ 思いやりを育む「妻中人権宣言」が制作できたのは良かった。今後も道德教育・人権教育に力を入れて欲しい。 	3.25	

<p>ふるさとへの誇りや他者と協働する力を引き上げる</p>	<p>カ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大変時間と労力のかかることだと思いますが、よろしく願い致します。 ○ 各自、問題が異なる中で、体制はしっかり整えていただいていると感じます。より個別対応が必要となりそうですが、市全体で取り組めると糸口が見える気もします。 ○ 不登校については、先日の第2回学校評議員会でも少しお話ししましたが、不登校になった子どもはそれぞれ理由も度合いも違いますが、非常にデリケートな問題であることはいえると思います。こちらの経験や知識をもって子どもである”当事者”にアプローチするだけでは解決することが難しいと思われる、家族や、その子が信用できる人などを巻き込んで（乱暴な表現で申し訳ございません）チームプレーで取り組むことも方法としてあっても良いのではと考えます。 ○ いじめに関するアンケートを毎月実施していただけることは、いじめの火種を作らない、作らせない大切な一因となるのでは。ぜひ実行をお願いします。 ○ 生徒指導委員会や特別支援教育推進委員会の設定で対応協議できたことは良いと思う。今後オンライン授業や「みつば」への登校など、生徒個人の希望に合わせ指導して欲しい。生徒との信頼関係も大切にしたい。 	<p>3.33</p>
<p>心身の健康と</p>	<p>キ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「さいと学アワード」には私も参加して見学してみたいです。 ○ キャリア未来ゼミなど、好評の声を聞いています。子ども達は何かと愚痴を言いますが、とても大事な場だと思っています。 ○ 「さいと学アワード（3年生）」や「キャリアみらいゼミ（1年生）」については、それぞれ「さいと学」での学びをインプットとし、成果の発表をアウトプットとすることであるが、各学年でインプットとアウトプットを繰り返すことで経験が積み重なり、経験値として厚みのある子どもが育っていくことは地元の大人としても喜ばしいことであると思います。「さいと学」として地元への愛着や誇りを生み出す素晴らしい取組であると思います。 ○ 各学年それぞれに素晴らしい企画で、将来の生き方に対する考えが広がることに期待する。次年度も取り組んで欲しい。 	<p>4.00</p>
<p>体</p>	<p>ク</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランの目標達成に努めてください。大人になっても常に心と体の健康は必要なので中学生での基礎づくりが大切だと思います。 ○ 体育でもいろんな競争をしたり、部活動も顧問の先生には対応していただいたりと体の健康面では十分に努めていただいていると感じます。特に部活動の先生方には感謝ではないでしょうか。 ○ 妻中学校はこれまで西都市及び児湯郡の中心校として先輩方が活躍してきました。昨今では国が部活動を地域へ移行する流れになっているようですが、地域の競技団体等の専門的な指導が得られれば良いのですが、実際は指導者や受け皿の確保は容易ではないと思っています。この問題については、教育委員会や各種競技団体等と情報共有をしながら良い着地点を見いだしていただけたらと思います。 ○ 体育祭、文化祭共に生徒が主体の企画、実践を先生方の助言で、手ごたえのある活動が次につながることを期待します。一方でこのような経験に参加できない生徒数名も気になるところです。 ○ 健康や食育についての情報発信で生徒や親の意識が高まることを期待する。 	<p>3.67</p>
<p>ケ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親の意識にもよりますが、家庭との連携という点では、面談等での話の場をもう少し活用できるかと思っています。 ○ 健康や食育についての情報発信で生徒や親の意識が高まることを期待する。 	<p>3.17</p>
<p>コ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いいことをしているのに西都市民が気付いたりしていないと思われるので、広報の努力が必要だと思います。 ○ 郷土を見つめ直す場としていい取組だと思います。（ウ）（キ）などと連携してより意識強くなると思います。 ○ 「西都市PRポスター」の作成を全校生徒が行ったとのことですが、子ども目線でのどのようなものに出来上がったのか非常に興味深いものです。申し訳ございませんが、残念ながら「ふるさとsight展」を見ることは出来ませんでした。生徒さん皆さんのポスターを拝見したくなりました。 ○ 郷土愛や自己実現のために様々なことに挑戦して欲しい。 	<p>3.75</p>
<p>サ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続が力だと思います。 ○ 細かくていねいに更新されていて、アクセス数にも成果が出ていると思います。ハードルはありますが、「SNS」の活用もより効果的かもと思います。 ○ 昨年度までのHPの閲覧数と比較して、突出して数字が上がっていることは、情報発信の工夫がなされていることの一因だと思います。 ○ 「妻中だより」は地区の回覧版で住民の目に触れることができ、活動、活躍の情報を得る機会になっていると思う。 ○ 毎月の妻中だよりを回覧版で見つけると皆見てくださっているのかな？と思う。郷土愛で妻中を支えていきたい。 	<p>3.58</p>